

Aggressive それから

aggressive tackle を攻撃的タックルと訳し推奨することの問題点と危険性についてコラム（参照：西川ラグビーコラム 2004/05/15,2005/12/12,2006/07/23）でとりあげてきましたが、aggressive であるということの内容についての理解を深めるために、文芸春秋9月号の「オシム流監督術」の中で面白いことが言われているので一読されるようお勧めします。要点は次のようになります。

「ドリブルで一人を抜いてもすぐに二人目がむかってくる。何とかそれをかわせても三人目で止められる。あのアグレッシブさこそ日本の武器となる」

「相手にもやりたいプレーを許してしまっている。落ち着いているけどアグレッシブではないのです」

aggressive は辞書では攻撃的という意味になっているとしても、その言葉の内容と使われ方によって誤解の元になりかねないので、短絡的に理解してはいけません。

競技においては、敵イコール悪者、攻撃してやっつけるものと偏った考え方でなく、相手イコール競技仲間、いかに競うか考えるべきで、身体をぶつけ合うラグビーでは、鍛練の程度に応じてではあるが、攻撃的であることが過度の激しさを要求する結果、事故に結びつく危険性があります。自信と経験の乏しいプレーヤーがより激しく当たるために勢いよく飛び込むことは事故の元になります。

再度 aggressive tackle を攻撃的タックルと翻訳し、刺激し激励するような印象を与えていることの間違ひについて書きましたが、言葉が一人歩きしているようですので、改めて注意を喚起したいと思います。十分訓練がなされていない青少年プレーヤーが励まされて血気にはやり、闇雲に飛び込むのは危険で、世間で騒がれている飲酒運転にも例えられる程のものです。aggressive tackle を攻撃的タックルと訳し、「飛び込め！」と、激しさを強く求めるのは、お酒を勧め飲ましている行為に匹敵するもので自粛しなければなりません。それは一人のプレーヤーを順調に成長発展させるために役立たないことです。

2006.10.07
西川 義行